

きえさんぼう
帰依三宝(帰依仏法僧宝)

令和七年四月十六日 加茂法話会

一、あきらかにしりぬ、西天東土、仏祖正伝するところは、恭敬くきやう仏法僧なり。帰依せざれば恭敬せず、恭敬せざれば帰依すべからず。この帰依仏法僧の功德、かならず感応道交するとき成就するなり。たとひ天上人間、地獄鬼畜なりといへども、感応道交すれば、かならず帰依したてまつるなり。

『正法眼蔵』「帰依三宝」の巻

●明らかに次のことが判明する。インド・中国の仏祖が正伝するところは、仏法僧を敬うということである。帰依しなければ敬うことはないし、敬わなければ帰依することはない。この仏法僧に帰依するという善業を積み重ねて得られた力(功德)は、衆生と諸仏が心を響き合わせた(感応道交)時に完成するのである。たとひ天上・人間・地獄・餓鬼・畜生であっても、諸仏と心を響き合わせたならば、かならず帰依するのである。 駒沢大学名誉教授石井修道先生

■帰依＝帰投、身も心も投げ出していく。

帰：「大の字になつて我が家の味を知る」。本来帰るべきところに帰る

依：依る。依るべき所。依伏(えぶく)。

■感応道交 心が通い合い、互いに深くうなずきあい、同調すること

二、次には応に仏法僧に帰依したてまつるべし。三宝に三種の功德あり。いわゆる一体三宝・現前三宝・住持三宝これなり。

阿耨多羅三藐三菩提あのかたらさんみやくさんぼだいを称して仏宝となす。清淨離塵しやうじやうりじんなるは乃ち是れ法宝なり。和合の功德は

僧宝なり。是れ一体三宝なり。

『教授戒文』

■現前三宝：釈尊の生きている時代、釈尊とその教法と仏弟子たちのこと

■住持三宝：お釈迦様が亡くなってから、仏とは仏像とか絵画とか。法は、経典など。僧は教えを実践する人

■一体三宝

●阿耨多羅三藐三菩提とは、もうこれ以上の真理はない。真理のぎりぎりのところを現している。「我と大地有情と同時成道す」と言われた。天地同根万物一体。宇宙の真理そのもの。これが仏である。清淨離塵なるもの、それが自然の法則そのもの。これ以上に清らかなものはないと捉えていく。天地同根万物一体という一つの真理が、自然の法則となって現れている。これが法宝。それらが、争わない。調和がとれている。仲の良い和合の姿、これが僧宝。

●お互いは全部、赤の他人の寄り集まりではなく、一つの佛(佛宝)の現われとして、千差万別の姿をもちながら(法宝)、どうしようもなくつながっている(僧宝)。そしてお互い助け合いながら、大きな命を支えている。

三、「仏に祈る」ではなく、「仏を祈る」↓感応道交

元花園大学学長 盛永宗興老師

元永平寺西堂 奈良康明老師

東龍寺住職 渡辺宣昭 合掌